



羽沢小の卒業生が“大切な一文字”を思い出に、 「令和」の書家・茂住さんが来校

公開日：2026年03月22日

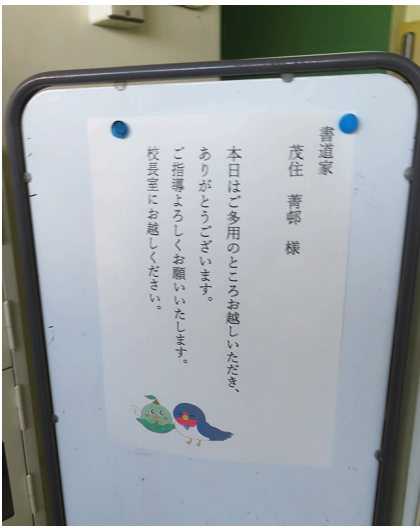
[公共施設](#)、[子育て・教育](#)、[小・中学校](#)、[講演会・芸術関連など](#)、[師岡町](#)、[港北区](#)、[羽沢横浜国大](#)、[横浜市神奈川区](#)、[新横浜駅](#)・[国語](#)・[羽沢横浜国大駅](#)・[夢交流会](#)・[羽沢](#)・[羽沢町](#)・[羽沢団地前](#)・[鶴見川流域水協議会](#)・[師岡小学校](#)・[総合的な学習の時間](#)・[横浜駅](#)・[書道](#)・[横浜市立小学校](#)・[羽沢小学校](#)・[書道家](#)・[総合的な学習](#)・[横浜市立羽沢小学校](#)

新元号「令和」を揮毫（きごう）したことで知られる書家が、卒業生に“大切な一文字”を書く大切さを伝える「特別授業」を行いました。

羽沢横浜国大駅から徒歩約20分、羽沢団地前バス停から徒歩約5分の横浜市立羽沢小学校（神奈川区羽沢町）では、新元号「令和」を揮毫（きごう）したことで知られる書道家の茂住菁邨（もずみせいそん）さん（本名：茂住修身＝おさみさん）を招へい。



2019年5月の「新元号」への改元を前に、当時、内閣官房長官を務めていた菅義偉（すがよしひで）さん（元内閣総理大臣、前衆議院議員）が同年4月1日に掲げた「令和」を揮毫したことで知られる茂住菁邨（もずみせいそん）さんが来校した



茂住さんの来校を歓迎する看板も掲出。創立50周年記念事業で誕生したというキャラクターのキャベツ（キャベツ）とキャッピー（つばめ）も描かれていた

今年（2026年）1月27日午後、卒業する6年生約70人を対象とした「**未来の一字を紡（つむ）ぐ**」特別授業を初めて実施、自分が選んだ“大切な一文字”を書くことの楽しさを学ぶひとときを共有しました。

今回の授業は、2023年4月から同校に着任した**川村智子校長**が、2022年度までに校長として勤務していた**港北区内の師岡小学校**（師岡町）とのつながりから実現に至ったといいます。



羽沢小学校でPTA会長を務める松村賢浩さんも茂住さんを出迎え。内閣府（旧総理府）に入府して以来の「日本の歴史を刻む」活躍を遂げてきたこれまでの足跡に触れていた



広々とした体育館に机とイスを教室から持ち込み、
全学年での「未来の一字を紡（つむ）ぐ」特別授業
がスタートした



茂住さんが「令和」の文字を筆を執り子どもたちの
眼前で披露

内閣府（旧総理府）に入府して以来、**内閣総理大臣**や国務大臣の辞令のほか、**国民栄誉賞**などの盾の題字や賞状の揮毫（きごう）を行うなど「日本の歴史を刻む」活躍を遂げてきた茂住さん。

体育館に机を並べ開かれた「特別授業」では、**大学時代の書道部**での経験から、書家としての職に至ったエピソードなど、重厚さの中にも軽快な語り口で子どもたちを**“書道の世界”**に誘います。



羽沢名物「キャベツ」についても
筆を進める茂住さん



児童のみならず先生方や見学していたPTA役員や学
校ボランティア、保護者たちも笑顔に

子どもたちが「未来に向けて」記したいと願った一文字、そして名前の**見本**を、朱書きで茂住さんが事前に用意。

手を挙げた児童に、一緒に筆を進めるサポートを行うなど、“またとない”経験もプレゼントながらの、“忘れられない”授業のひとつを過ごしていました。



作品に押す「自分だけの」印づくりも



卒業を前に一人ひとりが選んだ「一文字」の見本も茂住さんからプレゼントされた



「忘れられない」一文字を書くためのサポートも行ってた

“キャベツ畑”が広がる立地、「自分づくり科」の充実も

新横浜駅からバスで10数分、横浜駅からも15分から20分もあれば「羽沢団地前」バス停に辿りつけるとい立地にある羽沢小学校。

新駅「羽沢横浜国大駅」（神奈川区羽沢南）の開業もあり、地域内外からの注目を集める立地でありながら、学校や駅の周辺にはまだ多くの農地が残され、特に目立つのは「キャベツ畑」。



羽沢小学校は羽沢町の丘陵地帯に位置し学校の前には広々としたキャベツ畑が広がっている

「学校とキャベツ農家の交流もあるなど、前任地の師岡小学校とはまた異なる校風です」と、着任してから3年間、“学校と地域をつなぐ”試みの中にも、“羽沢小らしさ”を活かす取り組みを行ってきたと語ります。

2024年度には、同校内で個別支援級の子どもたちが「わくわくビオトープ」（ビオトープは「生きものの暮らす場所」の意味）作りにも挑戦し、エビやメダカ、ヤゴやカワニナ、タニシなどが生きる場所が誕生。



鶴見川流域水協議会による「夢交流会2025」で2024年度に誕生した「わくわくビオトープ」についての発表が行われた（2月11日、横浜市歴史博物館講堂）

2025年2月に開催された「鶴見川流域水協議会」（事務局：国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所）による「夢交流会2025」（横浜市歴史博物館＝都筑区中川中央で開催）で活動成果を発表、感謝状が送られています。

生活科と総合的な学習の時間において「自分の生き方を考えることにつながる」学びや「人と関わる」学びを重視して展開する「**自分づくり科**」にも力を入れているという同校らしい取り組みに、これからも多くの注目が集まりそうです。

【関連記事】

- ・ [日本の歴史刻む書道家・茂住さんが再び来校、師岡小PTAとの“絆”で特別授業](#)（2025年12月12日）
- ・ [“きれいな鶴見川”への想いを次世代へ、綱島や新横浜など4団体が「貢献者」表彰](#)（横浜日吉新聞、2025年2月17日）※羽沢小学校が「夢交流会」に参加し「わくわくビオトープ」を作った経緯を発表した
- ・ [<レポート>師岡小50周年式典は「子ども」が主役、卒業生も来校で“記念日”彩る](#)（横浜日吉新聞、2022年10月31日）※川村校長が在任時の記事）
- ・ [65周年迎えた篠原小が「地域とつながる」、「手作り」式典で新キャラクターも](#)（2026年3月21日）※現篠原小学校の岩元カオリ校長は2020・2021年度に副校長として羽沢小学校に着任していた

【参考リンク】

- ・ [横浜市立羽沢小学校のサイト](#)
- ・ [「学校だより12月号」](#) (同) ※PDFファイルへのリンク有（「自分づくり科」の詳細を掲載）

いま読んだ記事をSNSで共有する

ポスト



前の記事

≪



[65周年迎えた篠原小が「地域とつながる」、「手作り」式典で新キャラクターも](#)

次の記事

[国際園芸博「グリーンエクスポ」まで1年を切る、出展イメージなど次々と新発表](#)



≫

トップへ戻る→[新横浜新聞（しんよこ新聞）](#)

こちらの記事も合わせてどうぞ